# 2022(令和 4)年度　関西保育福祉専門学校

# 第２回教育課程編成委員会報告

本校の教育課程編成委員会設置要綱に基づき設置した教育課程編成委員会において、第１回委員会を下記の通り開催いたしましたので、報告いたします。

１．　**開催日時**　　2023(令和 5)年 3 月 2 日(木)　15:00～17:00

２．　**開催場所**　　**関西保育福祉専門学校　校長室**

３．　**委員一覧**

【委員】

| 名　前 | 所　属　等 | 備考 |
|---|---|---|
| 下里　里枝 | 関西国際大学　教育学部教育福祉学科　准教授 | 出席 |
| 得平　正宏 | 社会福祉法人尼崎市社会福祉協議会　事務局長 | 欠席 |
| 赤井　祐 | 社会福祉法人聖隷福祉事業団<br>聖隷ケアセンター宝塚　センター長 | 出席 |
| 浅田　尚子 | 尼崎市立水堂保育所　所長 | 出席 |
| 北島　孝通 | 学校法人庄内神社学園<br>幼保連携型認定こども園 庄内こどもの杜幼稚園　園長 | 出席 |
| 濵田　洋行 | 社会福祉法人協同の苑　協同の苑六甲アイランド　施設長 | 出席 |
| 黒岩　由美子 | 社会福祉法人ふたば福祉会　塚口北ふたば保育園　園長 | 出席 |
| 村田　健治 | 関西保育福祉専門学校　教務委員長 | 出席 |
| 藤田　千波 | 同上　　保育科学科長 | 出席 |
| 中嶋　昭典 | 同上　　介護福祉科学科長 | 出席 |
| 藤井　和子 | 同上　　保育科教員 | 出席 |
| 吉田　しのぶ | 同上　　保育科教員 | 出席 |

【オブザーバー】

| | | |
|---|---|---|
| 濱名　篤 | 学校法人濱名山手学院　理事長 | 出席 |
| 本田　あけみ | 関西保育福祉専門学校校長　関西国際大学経営学部教授 | 出席 |

## ４．概　要

（１）校長あいさつ

（２）報告事項

第１回教育課程編成委員会報告について

■　学校から会議録に基づき、説明

（３）協議

【２０２２(令和４)年度の教育課程について】

1)　保育科としての取り組みと今後の方向性

■ 学校から資料に基づき説明

□　委員からのご意見

〇在学生の教育目標到達度自己点検票（ベンチマーク）の結果に関して

・「疾病」に対しての理解という目標項目については、保育者は看護職とは違い、子どもの「顔色が悪い」「発疹がある」などといった普段との違いを捉える観察力に焦点を当てていくことも大切ではないか。

とりわけ、保育の中で子どもの様子を適切に把握し、保護者、同僚に正確に説明できる能力の育成が、今後は求められている。「疾病」そのものの理解も重要であるが、子どもの状態を捉える保育者を目指した目標設定へとシフトしていくことも必要である。

・「ピアノの弾き歌い」の目標項目について、現在新卒者を含めピアノ演奏スキルの低い保育者や、現場においても苦手意識の高い保育者の姿が多くなってきている。子どもの情操を育てるための表現活動の手段として「ピアノ」を用いることは有用ではあるが、こだわりすぎず、インターネット音源やCD音源などを活用した保育を進めている現場の姿もみられる。

ピアノに代わる音楽表現方法として、学生一人一が「自分自身は何ができるのか」を見つめながら、様々な方法で表現力を培っていくことが求められている。

〇保育・教育実習における学生の状況に関して

・初任者の保育を見ていると、子どもに対して１対１で対応する際は、受容を土台とした関わりができており、それは実習生の姿からも感じ取れる。しかし、とりわけ「集団の中での個別指導」に悩む姿が非常に大きいと感じられる。集団で子どもと一緒に活動している中で、子どもの意見を取り上げたり、子どもの言葉に耳を傾けたりしながらも、保育を進めていくことのできるスキルが求められる。

・コロナ以前（３年ほど前）の学生や実習生に対しては、挨拶など社会人としてのマナーの重要性を意見として出すことが多かったが、その点について調査結果か

らも改善が見られている点を嬉しく感じる。

・「状況に応じた言葉がけ」を実習生の時点で行うことはとても難しいものである。特に、「何を大切にして言葉をかけるのか」が保育においては大切である。保育現場では「人権保育」を理念として掲げ、一人一人を大切にした言葉をかけたり、子どもの意図に寄り添えるよう、見守る姿勢を大切にしたりするなど、これまで「保育者中心」であった視点からの移り変わりを感じている。

・保育において必要なスキル（PC・ピアノ・手遊び・制作物）を身に付けることも重要だが、人間性についても育てていくような視点をベンチマークに盛り込んでいくことが望ましいのではないか。特に自尊心、向上心をもつことは非常に大切で、現場でも意見を出さない、発言をしない初任者の姿も散見されている。安心した職場環境の中で、チームとして保育を進めていくことができるように成長してほしい。

2）介護福祉科の取り組みについて

■　学校から資料に基づき説明

□　委員からのご意見

〇在学生の教育目標到達度自己点検票（ベンチマーク）の結果に関して

・この 3 年間、コロナ禍においては実習の受け入れが難しい状況が続き、施設側としても実習生に対して十分な学びを保障できていなかった部分がある。
しかし、高齢者施設においては、未だコロナによるクラスターは発生しており、疾病対応は進みつつあるものの難しい現状にある。
　介護福祉の現場に卒業生が出られていくと思うが、今後の活躍を期待したい。

・介護福祉科の廃止には寂寥感がある。尼崎を中心とした社会福祉に関する様々な事業所では卒業生が重要なポジションに立ち、業務にあたっている。少子化や留学生増加などに伴い、福祉施設で勤務する初任者への教育も年々難しさを増している。これまでは利用者の特性の理解が重要であったが、近年では職員の特性も把握しながら運営していくことが求められ、難しさを感じている。

・国家試験合格に向けて、知識として習得が必要な内容と、現場で必要とされるスキルはそれぞれ重要なものではあるが、特に国家試験に向けた学習を深める中で、一定の専門性を担保し、現場では根拠のある援助ができるようになってほしい。「なぜこの援助をしているのか」が同僚や利用者にも伝えられるようになることが大切。そのような視点で学んでいくことが求められる。

3) 学生生活実態・ICT 環境調査について

■　学校から資料に基づき説明

□　委員からのご意見

〇生活実態調査について

・学生の生活状況をグラフなど視覚化することで、実態について改めて理解することができた。現場の初任者など若手職員は PC スキルが低いことも、学生時代からの所持率を踏まえると納得できた部分もある。保護者宛文書や公務文書等、文書作成スキルは必須のものであり、職場に出てからも指導を続けていくことが求められていることを実感した。

4)授業評価アンケートについて

■　学校から資料に基づき説明

□　委員からのご意見

・保育現場においては、連絡帳などをはじめとした文章伝達スキルに悩む保育者が非常に多い。保護者の気持ちを受容しながら返信、またこちらからも発信できるようになっていってほしい。

　文章で相手とキャッチボールをすることが社会に出てから求められるケースは多く、専門学校でのカリキュラムの中でも重要視していくことが必要ではないか。

（４）その他

1)2020 年度卒業生就業状況について

■　学校から資料に基づき説明

□　委員からのご意見

・近年、初任者の就業状況の調査をする養成校に加え、勤務継続 3 年～5 年の活躍状況についても調査を行う学校もみられる。保育者として続けられる人材には何が育っているのか、何を育てていくのかを追跡して調査することも今後は大切になってくるのではないか。

・コロナ禍で 3 年が経過し、マスク着用についても個人に委ねられる状況へと変わりつつあるが、あまりにも長期にわたってマスクで生活を過ごしてきた結果、保育者においても感染のリスクが少ない状況でもマスクを外すことに抵抗感のある姿が見られている。もう一度、子どもの前で保育者が表情を届けることの大切さを考える時期にきている。

（５）事務連絡

・委員任期は 1 年である為、2023 年度についても委員委嘱を依頼。